

取組名称	体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について
開催日	平成21年3月24日(東京)、3月27日(大阪)
目的	体細胞クローンについての食品健康影響評価に対する理解を深める。(科学的な要素に対する理解の促進)
主な対象者	消費者、意見募集に応募したいと思っている人々
目標	評価結果について、その科学的側面(安全性、技術の必要性など)についてわかりやすく伝える。 体細胞クローンについて、関係者からの疑問、質問に応える。 評価結果(リスク評価)と食品としての管理体制(リスク管理)の関係について理解してもらう。
メインメッセージ	成育し、食用に供される可能性のある体細胞クローン家畜は、従来のものと同等の安全性 発生・発育途中で死亡してしまう体細胞クローン家畜の原因は、全能性の獲得の完成度によるものであり、成育し、食用に供される可能性のある体細胞クローン家畜とは異なる。 体細胞クローン家畜の後代は従来技術によって生まれてくるものと変わらない。
議事	(1)開会 (2)開会挨拶 (3)講演 体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品の食品健康影響評価(案)について 早川 堯夫 (食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ座長・近畿大学薬学総合研究所所長)  体細胞クローン動物における全能性の獲得について - エピジェネティクスについて - 塩田 邦郎 (食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門参考人・東京大学大学院農学生命科学研究科教授) (4)会場参加者との意見交換 登壇者 早川 堯夫 塩田 邦郎 澤田 純一 (食品安全委員会新開発食品専門調査会ワーキンググループ専門 委員・国立医薬品食品衛生研究所機能生化学部長) 東京会場 長尾 拓 (食品安全委員会委員) 大阪会場 小泉 直子 (食品安全委員会委員長代理)
企画上のポイント	説明と質疑応答の2部構成とした。 当日、参加者に意見、質問を『質問カード』に記入していただき、意見交換の際の論点を整理した。 事前に、食品安全モニターや食の安全ダイヤルに寄せられた意見や質問、一般の人々のコメントが掲載されたホームページなどを参考に説明のストーリー、内容を検討した。 Q&A集、用語解説も配布資料とした。 オブザーバーとして、厚生労働省、農林水産省に出席してもらい、リスク管理に関する質問、意見に直接、その場で回答できるようにした。

**食品に関するリスクコミュニケーション(東京)**  
**一体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について**  
**アンケート集計結果**

開催日:2009年3月24日(火)

Q1 以下の設問についてそれぞれあてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください。

Q1-① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	32	74.4%
2. 女性	11	25.6%
無回答	0	0.0%
合 計	43	100.0%

Q1-② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	1	8.2%
3. 30歳代	8	10.3%
4. 40歳代	8	24.7%
5. 50歳代	13	25.8%
6. 60歳代	9	26.8%
7. 70歳以上	3	3.1%
無回答	1	1.1%
合 計	43	100.0%

Q1-③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	11	25.5%
2. 主婦、学生、無職	2	4.7%
3. 畜産関係生産者	0	0.0%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 畜産・水産以外の生産者	0	0.0%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	11	25.5%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	4	9.3%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	9	21.0%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	2	4.7%
10. その他	4	9.3%
無回答	0	0.0%
合 計	43	100.0%

その他

コンサルティング会社
ISO22000審査員
化学品メーカー勤務

Q1-④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	20	46.6%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	4	9.3%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	10	23.2%
4. 関係団体からのご案内資料	5	11.6%
5. 知人からの紹介	1	2.3%
6. その他	2	4.7%
無回答	1	2.3%
合計	43	100.0%

その他

食品安全エクスプレス

Q1-⑤ 食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか。

回答内容	件数	割合
1. はじめて	14	32.6%
2. 2回目	4	9.3%
3. 3回目	5	11.6%
4. 4回目	4	9.3%
5. 5回以上	16	37.2%
無回答	0	0.0%
合計	43	100.0%

Q1-⑥ あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	31	72.0%
2. ややそう思う	8	18.6%
3. あまりそう思わない	2	4.7%
4. 全くそう思わない	0	0.0%
5. わからない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

Q2-1 本日の意見交換会に参加された目的はどのようなものですか？

回答内容	件数	割合
1. 体細胞クローン家畜由来食品について、疑問に思うことがあったから。	4	9.3%
2. 体細胞クローン家畜由来食品の安全性評価の経緯・内容について、知りたかったから。	22	51.2%
3. 体細胞クローン家畜由来食品に対して、どのような施策がとられるのか知りたかったから。	2	4.7%
4. 体細胞クローン家畜由来食品の安全性評価案に対して意見を提出するために情報を得たかったから。	1	2.3%
5. 他の参加者の考えや意見を聞きたかったから。	8	18.6%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	1	2.3%
7. その他	1	2.3%
無回答	4	9.3%
合計	43	100.0%

その他

どのくらいの方が、来場して、どのような質問が出るのか興味があった

Q2-2 上の質問(Q6)でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会ほどの程度満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
1. 充分満足した	2	4.7%
2. ほぼ満足した	25	58.1%
3. あまり満足できなかった	7	16.3%
4. まったく満足できなかった	1	2.3%
5. どちらでもない	4	9.3%
無回答	4	9.3%
合計	43	100.0%

Q2-3 "あまり満足できなかった""まったく満足できなかった""どちらでもない"と答えた方に伺います。本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

具体的な事例が多く含まれているとわかりやすくなる…
意見交換の時間が少なかった。
意見をもっと聞くべき(時間が短い)
疑問が解明されなかった
会場との活発なやりとりの時間があまりなかった
司会は消費者代表(消費者団体など)が務めて、進行した方が一般の人にわかりやすくなったのでは。
少しむずかしい部分もあった
きわめて専門的で有り、難しい課題で、わかりにくかった。科学は、安心感に結びつかないと思う。
科学的にクローンの食品としての安全性とエピジェネティクスがどう結びつくのかよく分からない。

Q2-4 本日の意見交換会の進め方について伺います。会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせ下さい。

a. 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	4	9.3%
2. 適切だった	31	72.0%
3. あまり適切ではない	6	14.0%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

b. 開催方法(参加手続き、場所、所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	2	4.7%
2. 適切だった	31	72.0%
3. あまり適切ではない	8	18.6%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

c. 配付資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	2	4.7%
2. わかりやすかった	29	67.4%
3. わかりにくかった	9	20.9%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	3	7.0%
合計	43	100.0%

d. 講演内容

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	3	7.0%
2. わかりやすかった	24	55.9%
3. わかりにくかった	11	25.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	5	11.6%
合計	43	100.0%

e. 会場参加者との意見交換

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	3	7.0%
2. わかりやすかった	26	60.5%
3. わかりにくかった	9	20.9%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	5	11.6%
合計	43	100.0%

f. 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	8	18.6%
2. おおむね評価する	22	51.2%
3. あまり評価しない	8	18.6%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	5	11.6%
合計	43	100.0%

Q3

本日の意見交換会の内容について、それぞれ当てはまるところを○で囲んでください。

① 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について、理解できましたか。

回答内容	件数	割合
1. よくわかった	10	23.2%
2. ほぼわかった	24	55.9%
3. わかりにくかった	8	18.6%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	1	2.3%
合計	43	100.0%

② 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価についての疑問が解消されましたか。

回答内容	件数	割合
1. 十分解消された	6	14.0%
2. だいたい解消された	21	48.8%
3. まだ解消できていないところがある	9	20.9%
4. 全く解消されなかった	6	14.0%
無回答	1	2.3%
合計	43	100.0%

Q4 本日の意見交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この意見交換会で明確になりましたか？

回答内容	件数	割合
1. とても明確になった	2	4.7%
2. ほぼ明確になった	27	62.7%
3. 明確にならなかった	9	20.9%
4. さらにわからなくなった	2	4.7%
5. 疑問に思うことや質問はなかった	1	2.3%
6. その他	0	0.0%
無回答	2	4.7%
合計	43	100.0%

Q5 今日の意見交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなどありましたら、お書き下さい

体細胞クローン牛の死産、原因について
文献で失敗した例をききたかった。1例でも失敗した例の方が消費者はきになる
エピジェネティクスについては難しい内容であったので、もっと分かりやすく説明が欲しかった
説明内容に対する再質問が多かったと感じました。食安委のHPIにパブコメが出されてすぐにこのリスクミを開催した意味は、理解を深めてもらうことだと感じました。ただ、先生方の言葉は「科学者の域」をでてなかったのかなとも思いました。小平リスクコミュニケーション官におかれては、大変だったのではと、個人的に思いました。「共感」が今ひとつか。
民間企業の意見も含むとよい。生協あたりの意見も含むとよい
クローン技術そのものについて知らない部分(何が今わかって、何がわからないか等)についての勉強会を農水等が開いてくれるともっと理解しやすい
何故体細胞クローン技術なのかがわからない。
意見交換会の登壇者にもっと広い分野の人々がいてもよいのではないのでしょうか？肯定論者(クローン牛の安全性)だけでは議論は十分なされないのではないのでしょうか！！
きわめて専門的で有り、難しい課題で、わかりにくかった。科学は、安心感に結びつかないと思う。
なぜ評価が必要か？があまり良くわからなかった
わからないこと科学的知見がたりない、不足すぎ
食品レベルでの安全性の評価の判断材料となったデータを指して欲しかった。
エピジェネティックわかったような気もするが理解できたかどうかの判断ができない。
エピジェネティクスわかりにくい
エピジェネティクスでわかったと言われてもわからない。
クローン食品の安全性vsエピジェネティクスに関して、エピジェネシス(DNAのメチル化/非メチル化パターン)は、体細胞クローンが生まれる上でのメカニズムであって、クローン食品の安全性とは関係がないのでは？

Q6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものがあれば全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	割合
1. 委員会、専門調査会が一般の人にも傍聴が可能なこと	27	62.7%
2. 食品安全委員会ホームページ	33	76.7%
3. 食の安全ダイヤル	19	44.2%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	26	60.5%
5. 食品安全モニター制度	22	13.4%
6. 季刊誌『食品安全』	25	58.1%
7. 食品の安全性に関する用語集	27	62.7%
8. 食品の安全性に関する政府広報	13	30.3%
9. その他	2	4.7%
無回答	5	11.6%
合計	199	

その他

食品リスクコミュニケーター養成講座

Q7 上記で選択したのも含め、会全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

東京会場は本日1回限りですか。急ぐ理由がわかりません
食品安全委員会は「リスク評価」を適切に行ってきたと思います。しかしながら、「無知」なマスコミ記事によって、「リスク評価」の内容は消費者に誤って伝えられてきました。BSEがその典型的な例です。情報の発信側（行政）が分かりやすく誠実に説明しますが、「偏った知識」のみ有する人達が「偏った部分」のみを増幅して（他は無視して）伝達する。この状況を打破する為に行政、企業、消費者が「共感」を持ちながら地道な意見交換会をしていきたいものです。消費者連盟はいつも論調が同じことしか質問してません。場を乱す発言は制しても良いと思います。同じ人だけ。
本日はありがとうございました。説明を直にきいた方が見解が進みますね
中国の事例も含めて情報を話して欲しい
<ul style="list-style-type: none"><li>・農水省の人が答えてないことを、小平氏が答えた。←これはおかしいデス。</li><li>・エビジェネティックの説明はむずかしかった。こういうリスコミで必要なのか？</li><li>・会場が不便な場所にあつて参加しにくい</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・クローンについての説明は2度目だが…完全に解かるということはないのかしらと悲観的になります、皆は解かるのかしら？</li><li>・今回、一般の人は対象に入っていないのですか？あまりそのような人は見かけないような気がしたのですが…</li></ul>
クローン牛・豚などを家畜として認める背景は、産業界の主導としてしか現状は見えません。もう少しこの点を何故、急ぐのが疑問です。食糧危機がひっ迫しているという状況は見られません。もっとゆっくり一般消費者を含めて論議していきたいものです。
一般の参加者としては、平日よりも土・日の開催が好ましい
<ul style="list-style-type: none"><li>・質問カードの使用はよかった（発言が片やらず）</li><li>・リスク管理について、消費者が選べるように、もし流通させるなら表示してほしい。米国に対しても同様に</li></ul>

**食品に関するリスクコミュニケーション(大阪)**  
**一体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について一**  
**アンケート集計結果**

開催日:2009年3月27日(金)

Q1 以下の設問についてそれぞれあてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください。

Q1-① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	25	59.5%
2. 女性	17	40.5%
無回答	0	0.0%
合 計	42	100.0%

Q1-② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	3	7.1%
3. 30歳代	5	11.9%
4. 40歳代	9	21.5%
5. 50歳代	13	30.9%
6. 60歳代	10	23.8%
7. 70歳以上	2	4.8%
無回答	0	0.0%
合 計	42	100.0%

Q1-③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	9	21.5%
2. 主婦、学生、無職	3	7.1%
3. 畜産関係生産者	0	0.0%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 畜産・水産以外の生産者	0	0.0%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	8	19.0%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	1	2.4%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	12	28.7%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	4	9.5%
10. その他	4	9.5%
無回答	1	2.4%
合 計	42	100.0%

その他

農林水産省消費者モニター
大学院生
技術士事務所を開設(畜産)
受託検査機関

Q1-④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	9	21.5%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	9	21.5%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	8	19.0%
4. 関係団体からのご案内資料	6	14.2%
5. 知人からの紹介	4	9.5%
6. その他	6	14.2%
無回答	0	0.0%
合 計	42	100.0%

その他

近畿農政局消費生活課
食品新聞(パン製菓)
職場で案内を見た
農水省のメールマガジン
新聞
職場での参加者募集

Q1-⑤ 食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか。

回答内容	件数	割合
1. はじめて	13	30.9%
2. 2回目	16	38.2%
3. 3回目	7	16.6%
4. 4回目	2	4.8%
5. 5回以上	4	9.5%
無回答	0	0.0%
合 計	42	100.0%

Q1-⑥ あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	27	64.1%
2. ややそう思う	9	21.5%
3. あまりそう思わない	1	2.4%
4. 全くそう思わない	1	2.4%
5. わからない	2	4.8%
無回答	2	4.8%
合 計	42	100.0%

Q2-1 本日の意見交換会に参加された目的はどのようなものですか？

回答内容	件数	割合
1. 体細胞クローン家畜由来食品について、疑問に思うことがあったから。	5	11.9%
2. 体細胞クローン家畜由来食品の安全性評価の経緯・内容について、知りたかったから。	22	52.4%
3. 体細胞クローン家畜由来食品に対して、どのような施策がとられるのか知りたかったから。	4	9.5%
4. 体細胞クローン家畜由来食品の安全性評価案に対して意見を提出するために情報を得たかったから。	2	4.8%
5. 他の参加者の考えや意見を聞きたかったから。	3	7.1%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	2	4.8%
7. その他	0	0.0%
無回答	4	9.5%
合 計	42	100.0%

Q2-2 上の質問(Q6)でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるものでしたか？

回答内容	件数	割合
1. 充分満足した	2	4.8%
2. ほぼ満足した	24	57.1%
3. あまり満足できなかった	10	23.8%
4. まったく満足できなかった	1	2.4%
5. どちらでもない	1	2.4%
無回答	4	9.5%
合計	42	100.0%

Q2-3 ”あまり満足できなかった””まったく満足できなかった””どちらでもない”と答えた方に伺います。本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

技術的な話が主で、食品としての話があまりなかった。
専門的内容とは言え、もう少しわかりやすくし、質問に答えてもらうリスクを期待していたから。
語句の説明はよくわかったが、クローン牛の安全性について、もう少し詳しい情報がほしかった。生まれてきたクローン牛が完全に通常牛と同じように食品として安全性があるという説明にはなっていないのか。従来の検査でよいのか？
聞き手の知識不足、話手の説得力不足、科学的根拠がミクロとマクロをごっちゃにして評価されているようですが、安全の評価が不確実
エビジュネティクスという事について、もう少しわかりやすく聞きたかった
何のためにこの技術が必要でリスク評価されているのか、この先にあるおもしろくが不信につながっているのではないのか
問題、疑問をもっと出して、それぞれにアンサーが出ている感じがしない。
エビジュネティクスの説明は大変わかりにくい。
質問に対する回答が不十分。とくに食品安全委員会の及ぼす担当者の回答
安全という枠の中の話は理解できる
流通までの流れ、表示の実現などの回答があまり明確でないと感じた

Q2-4 本日の意見交換会の進め方について伺います。会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせ下さい。

a. 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	4	9.5%
2. 適切だった	28	66.8%
3. あまり適切ではない	6	14.2%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	4	9.5%
合計	42	100.0%

b. 開催方法(参加手続き、場所、所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	3	7.1%
2. 適切だった	33	78.7%
3. あまり適切ではない	3	7.1%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	3	7.1%
合計	42	100.0%

c. 配付資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	1	2.4%
2. わかりやすかった	28	66.8%
3. わかりにくかった	7	16.6%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	6	14.2%
合計	42	100.0%

d. 講演内容

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	1	2.4%
2. わかりやすかった	25	59.9%
3. わかりにくかった	11	25.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	5	11.9%
合計	42	100.0%

e. 会場参加者との意見交換

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	5	11.9%
2. わかりやすかった	22	52.4%
3. わかりにくかった	9	21.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	6	14.2%
合計	42	100.0%

f. 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	9	21.5%
2. おおむね評価する	21	50.0%
3. あまり評価しない	8	19.0%
4. 全く評価しない	1	2.4%
無回答	3	7.1%
合計	42	100.0%

Q3 本日の意見交換会の内容について、それぞれ当てはまるところを○で

① 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価について、理解できましたか。

回答内容	件数	割合
1. よくわかった	6	14.2%
2. ほぼわかった	28	66.8%
3. わかりにくかった	6	14.2%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	2	4.8%
合計	42	100.0%

② 体細胞クローン家畜由来食品のリスク評価についての疑問が解消されましたか。

回答内容	件数	割合
1. 十分解消された	0	0.0%
2. だいたい解消された	20	47.6%
3. まだ解消できていないところがある	15	35.8%
4. 全く解消されなかった	5	11.9%
無回答	2	4.8%
合計	42	100.0%

Q4 本日の意見交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この意見交換会で明確になりましたか？

回答内容	件数	割合
1. とても明確になった	2	4.8%
2. ほぼ明確になった	20	47.6%
3. 明確にならなかった	13	30.9%
4. さらにわからなくなった	3	7.1%
5. 疑問に思うことや質問はなかった	2	4.8%
6. その他	0	0.0%
無回答	2	4.8%
合計	42	100.0%

Q5 今日の意見交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなどありましたら、お書き下さい

体細胞クローン技術由来等の食品について、現状の規制について想定される問題点をもう少し説明していただきたいかった
質問も多く意見交換も勉強になった。
現時点のリスク評価は今日の知見で、こんなものと思うが、新技術だけに将来け念されるリスク論議はないのか？例えばアレルゲン(GMOで見られる)など。
・全能性を完全に持たなくても生存することもあり得るかどうか。 ・遺伝子組みかえでないから安全という説明やと畜場で奇形なものは省いているから大丈夫という説明では不十分。・従来と異なる作り方をしているクローン牛の安全性の評価を従来のもと同じ検査法でOKとしている点に疑問を感じた。理論上はOKという説明では納得できない
話はクローンとか組みかえとかreprogramingなど遺伝子レベルのことなのに評価は正常かどうか、と場で除くとか小核試験、死などと議論的が科学的に飛躍しているのではないですか。全体的に多くの人を説得させるにはデータ、説明力の不足？
クローンの成功率が10%位だとのことですが、さらに高めることができるのでしょうか。
クローン技術についての日本としてのスタンスや、社会的要請についての判断であった上で、どう取り組むかの考え方を示してほしい
リスク評価としては説明があったが、家畜等の繁殖技術としての評価を他のところでぜひしてほしい
体細胞クローン技術で、7~8%健全に生育することは大きいことであるといった話をもっと一般に説明されるべきではなからうか。
「全能性」とは…というところをもう少し詳しく聞きたかった
エピジェネティクスのおこるメカニズムについてはある程度わかったが、クローン技術において起こる確率が高い理由が説明されないと不安に感じてしまうだろう。[欠かん品の出る確率が高い理由が明確になっていない]確率は違うが、通常の交配で起こるエピジェネティクスと事象は同じため、問題はないと考えたらよいのか。
クローン技術の必要性そのものが全くわからない。生命論理との関連性なくしては語れない技術ではないが切りはなしては考えられない。その証拠に食品安全委員会の技術担当者は、ヒトにも応用■■■■といったと思う。成功率が極端に低いことは■■■■ではない。
体細胞クローン牛の安全性についてはよく理解できたが、実際の流通に対する消費者の不安(表示など)、動物倫理、等についてはよくわからないままであった。
表示のことをもう少しすべき
消費者が何故不安に感じるのかについてもっと知りたかった。
牛、豚の出生前後の死亡率が高い原因がわからない限りまだまだ食品としては安全とは言えない。
消費者として安全でないという言葉を出すことは不可能である。安全と安全でないの議論にはどうしようもないのが悲し所である
エピジェネティクスについて更なる説明があってもよかったし15分の説明時間では短かいと感じた

Q6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものがあれば全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会が一般の人にも傍聴が可能なこと	18	42.9%
2. 食品安全委員会ホームページ	27	64.1%
3. 食の安全ダイヤル	16	38.2%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	16	38.2%
5. 食品安全モニター制度	14	33.3%
6. 季刊誌『食品安全』	16	38.2%
7. 食品の安全性に関する用語集	14	33.3%
8. 食品の安全性に関する政府広報	11	25.5%
9. その他	0	0.0%
無回答	11	25.5%
合計	143	

Q7 上記で選択したものも含め、会全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

- 1 農政省の消費者モニターをしており、食品安全モニターも一度やって見たいと思った。
- 2 リスク評価と併せて、生命倫理の問題や生態系への影響もあると思うが、食安委とは別にこのような問題の意見交換も必要ではないかと思う。
- 3 早川先生は「遺伝子の組み換えをしたものではないので新規の生体物質が作られることはない」とされているが、クローンでDNAのメチル化がおこりやすいとすると、牛や豚で押さえられている(従来発見されない)遺伝情報がメチル化により発現し、新たなものができるのでは?と疑問に思いました。早川先生のご説明は「クローン動物は安全である」という前提に基づいてなされていたように感じました。結論を急いでいるような印象が強かった。
- 4 資料1、P11の下の「…死亡率等が高い…?」について、全能性の獲得はYes、Noの2つにバッチリ分けられるのか理解できない。reprogramingのところがよく理解できない。科学的な説明、説得不足。しかしながら次のページの2枚とP10の下などからよく考えるとF1の牛は正常か死かだけでなく遺伝子レベルでもいろいろ出現すると思うのですが…。結果をマクロでみているということですがこれだとさらに遺伝子レベルのことはいえないのではないか。食べて安全かどうかというとは別です。資料1を用いて「体細胞…評価」で安全といわれるならもう少しつなぎも科学的にされたらいいか?
- 5 遺伝子組換え技術での食品の安全性が、問われている現在、クローン技術の安全性のレベルというものは、遺伝子組換えの安全性レベル比べると同じ位であるのかどうか。
- 6 この技術の国際競争に勝たなければならないから他の国に遺伝子くみかえのように負けれられないのでしょうか
- 7 食品としての安全性云々、安全性の検査等の質問、回答がありましたが、そもそも、人の口に入るような状況は数10年発生しないんじゃないでしょうか、食品としての商業流通は、当面考えられないと思いましたが…。
- 8 これまでの意見交換会に比べて男性の参加者の比率が高いと感じた。今後の食品安全モニター会議等にもこの点を配慮していただきたい。
- 9 どうして体細胞クローン家畜生産技術が必要なのかの説明が欠落していたように思います。(農水省の説明は不十分でした。)人工授精から体細胞クローンまでの開発の経緯の説明が必要だと思えます。
- 10 次回ということがあれば、参加者の選択を重要視して下さい。特に倫理について
- 11 農水省の説明のこぼれが多い。役所ことばも多い。「われわれ」…
- 12 安全性について「科学からは安全でそれ以上云いようがない」という意見があった。この見解はリスクコミュニケーションから云えばまちがいはない。そのような立場から意見を云うかぎり、消費者とコミュニケーションは図れないのか今を常識。私は安全と思っただけで消費者にどんなメッセージをつたえて安全を理解してもらい、安心してもらえるようにしようとするのかが見えなかった
- 13 会場が狭いと思います。3人がけは厳しいと思います。
- 14 意見交換の際の司会の方のとても適切な意見の持って行き方に良かったと思います。(名司会者)日本のデータより海外のデータを気にしながら実験している様に思える。日本独自の分セキがほしい